

ものなりとす、尙綺心兒の語りし所も、固より唐使に對して國勢を誇示せるものなれば、其の「廻紇小國也」、「廻紇之弱如此」と曰ひ、又「非我敵也」と曰へるによりて、必しも回鶻の國勢の甚しく不振の情態に在りしものなるべきを推し得べきに非れども、當時吐蕃が之を輕視したりしは争ふ可らず、長慶元年吐蕃は唐に入寇して青塞堡を侵し、此の入寇は實に弱小として輕侮したる回鶻が、唐の太和公主に尙するを憤りたるに由れり。

回鶻と北方諸部及び吐蕃との關係此の如くにして、可汗は連年此の爲に兵馬を動かさざる可らざりしとすれば、當代回鶻と唐との關係が一旦危機に瀕し、而して其の危きを誘致せし原因が除かれざりしにも係はず、依然として平和の情態を續けたりしものは、思ふに此等の事情の爲に制せられ、止むを得ざるに出でたる結果に外ならざりしなるべし。

第七章

崇德可汗 [151] Kün tāngriḍā ulūg bulmīs küčiüg bilgä (君登里邏羽錄沒密施句主錄毗伽)

曷薩特勤昭禮可汗 Ai tāngriḍā qut bulmīs alp bilgä (愛登里囉汨沒密施合毗伽)

胡特勤彰信可汗 Ai tāngriḍā qut bulmīs alp küčiüg bilgä (愛登里囉汨沒密施合句主錄毗伽)

盍駁特勤の時代

長慶元年(八二二年)二月(或は三月)保義可汗死して新可汗繼ぎ、唐は四月之[152]を冊して崇德可汗と爲せり、崇德可汗の死は新唐書回鶻傳に「敬宗即位之年可汗死」と見ゆれば、長慶四年(八二四年)にして、通鑑も之に従ひたれど、冊府元龜繼襲篇は同三年の事とし、唐會要の記する所も亦同じ、舊唐書廻紇傳には長慶二年五月「命使冊立登